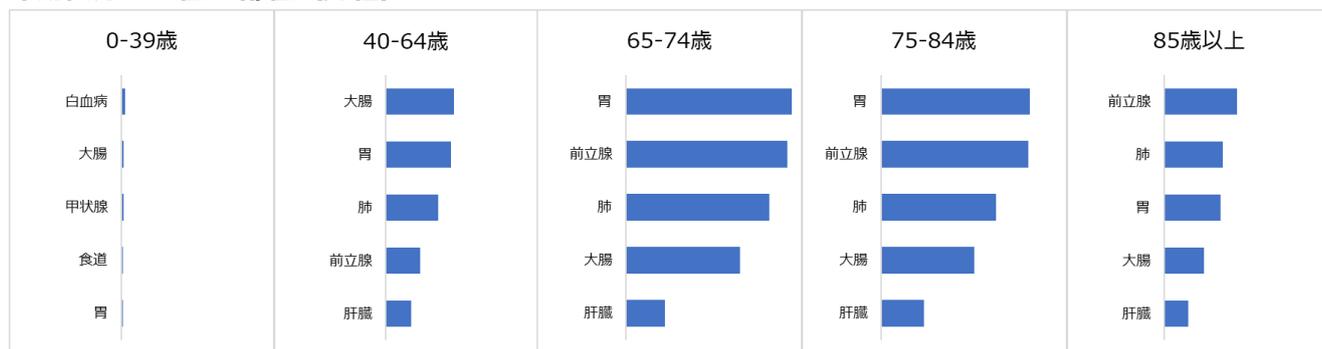
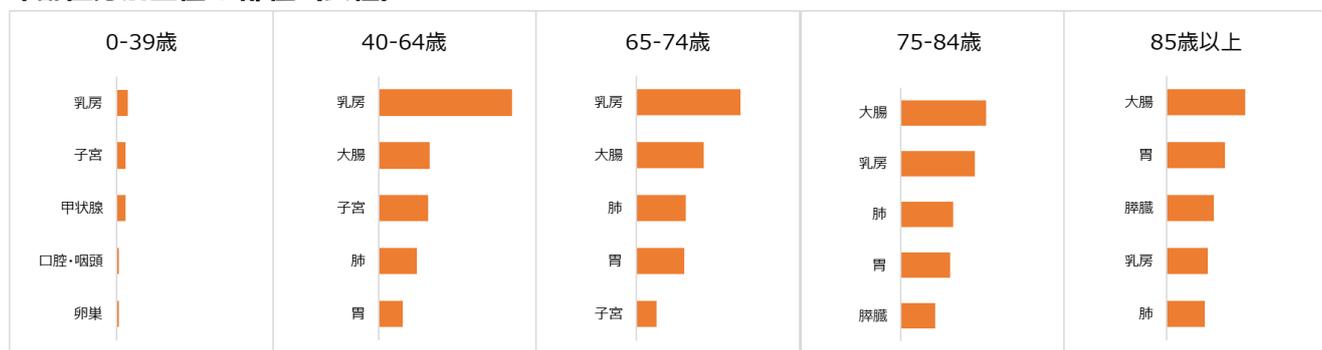


全国がん登録から見た鳥取県のがん罹患の現状（2019年）

年齢区分別上位5部位（男性）



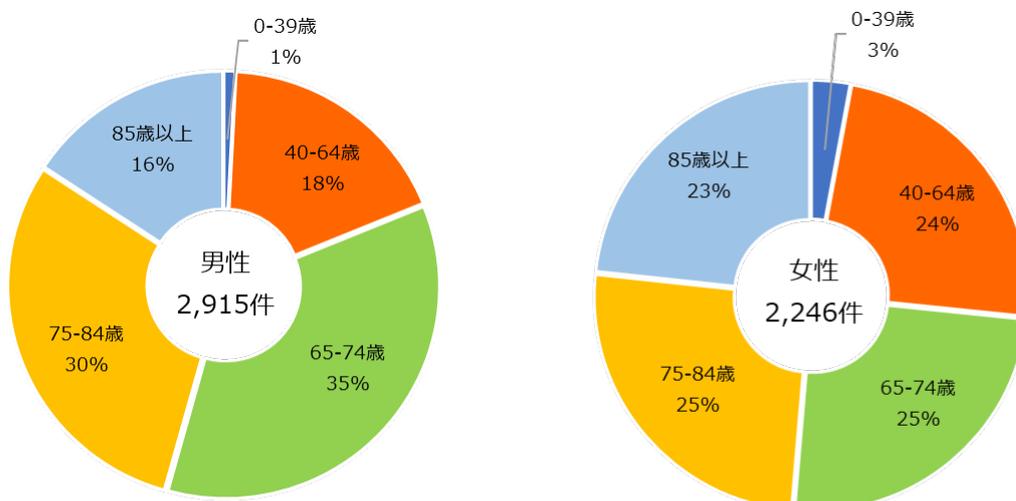
年齢区分別上位5部位（女性）



男性の0-39歳代では、白血病が最も多く、次いで大腸、甲状腺、食道、胃。40-64歳代では、大腸、胃がおしなべて多く、次いで肺、前立腺、肝臓の順。65-74歳代では、胃、前立腺がおしなべて多く、次いで肺、大腸、肝臓、75-84歳代でも、65-74歳代と全く同じく、胃、前立腺、肺、大腸、肝臓の順であった。85歳以上では、前立腺が最も多く、次いで肺、胃、大腸、肝臓の順。

女性の0-39歳代では、乳房が最も多く、次いで子宮、甲状腺、口腔・咽頭、卵巣の順。40-64歳代でも、乳房が最も多く、次いで大腸、子宮がおしなべて多く、肺、胃の順であり、65-74歳代でも、乳房が最も多く、次いで大腸、肺、胃、子宮の順であった。75-84歳代では大腸が最も多く、次いで乳房、肺、胃、膵臓、85歳以上でも、大腸が最も多く、次いで胃、膵臓、乳房、肺の順。

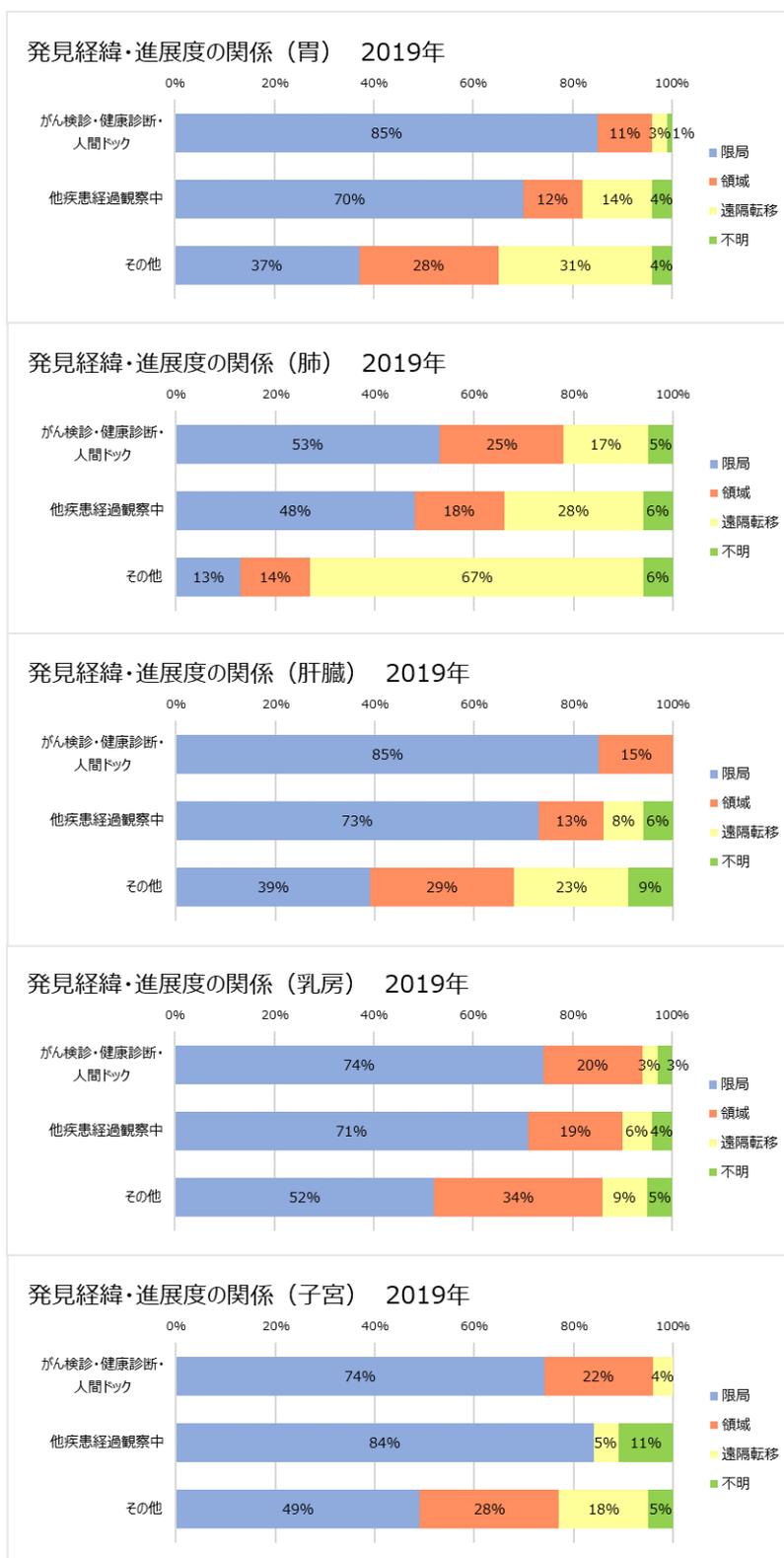
年齢5区分割合（%）



発見経緯と進行度の関係から、がん検診・人間ドック・健康診断などのがん予防効果の疫学的検証

ほとんどの部位でがん検診・人間ドック・健康診断などによるがん発見例において、いわゆる早期がんに相当する限局割合が多く、遠隔転移の割合が少ないことが認められていますが、肺においては遠隔転移の割合が17%と他の部位に比べ高い値を認めています。

限局割合は、がん検診・人間ドック・健康診断によるもので胃、肝臓が最も高く85%、つづいて子宮、乳房が82%、他疾患経過観察中によるものでは子宮が84%と高い値を認めています。

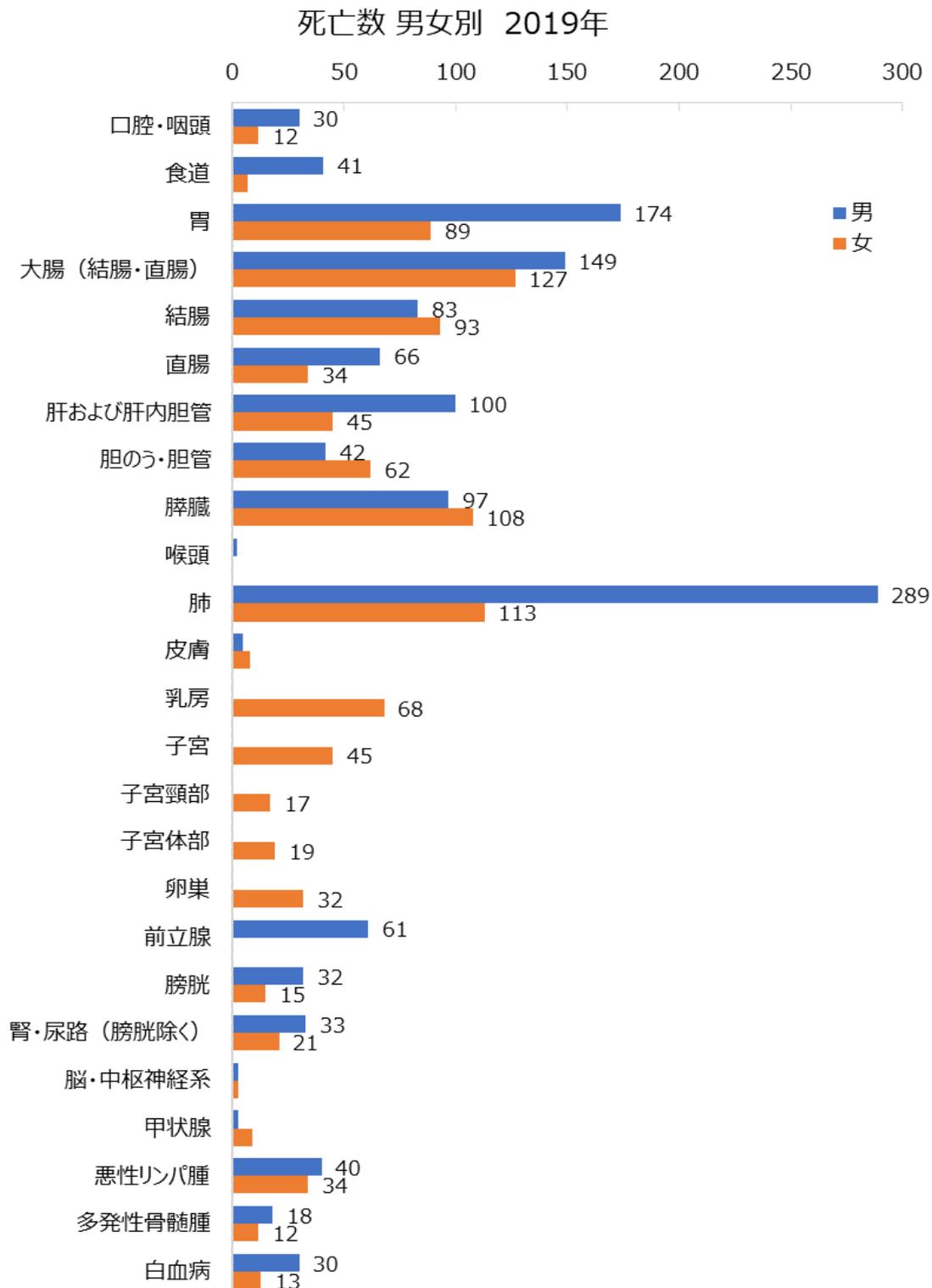


* 参考資料 *

死亡統計から見た鳥取県のがん死亡数の現状

鳥取県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性1,181人、女性875人、合計2,056人となっている。

部位別には、男性は肺（289人、24.5%）が最も多く、次いで胃（174人、14.7%）、大腸（149人、12.6%）の順となっている。また、女性では大腸（127人、14.5%）が最も多く、次いで肺（113人、12.9%）、膵臓（108人、12.3%）、胃（89人、10.2%）の順となっている。



年齢調整死亡率 全国比較 2019年

